

# 社会調査のデータ・オーガニゼーション

海外の状況・日本の現状と展望

統計数理研究所 データ科学研究系

吉野諒三

# 社会調査データ・オーガニゼーション

- 調査データ回収ユニット
- 調査データ解析ユニット
- 調査データ公開ユニット (データセットを実費程度で配布)

- 海外

ドイツ GEISIS (ZUMA, ZA, IZ)

米国 Roper Center, NORC(シカゴ大学),

ICPSR(ミシガン大学)など

通常、各国1つの代表的機関が各国内のデータを総括していることが多い。

# データ・アーカイブ事業

- 各国の調査は、各国の代表的アーカイブが責任を持って各「データの質」の評価などを管理、整備して公開する。
- 例 ZAの方針 データのリテラシーを考慮して、3つのレベル分類
  1. 優良なデータ・・・データクリーニング後、関連情報文書を整備して、一般に公開
  2. 多少の問題があるデータ・・・整備して、専門家向けに公開
  3. 問題が多くあるデータ・・・将来の活用のために保管

# 社会調査データ・オーガニゼーションの 世界的ネットワーク

- IFDO (International Federation of Data Organizations)  
日本 東大が加入
- CESSDA (Committee of European Social Science Data Archives)

ISSP 国際共同社会調査プログラム cf. 日本 NHK 参加

各年、政府の役割、男女共同参画、環境問題など、5年で一サイクルの時系列的かつ国際比較調査の設計になっている。

**調査の倫理**(調査方法の統計的妥当性や信頼性、個人情報保護など含む)を検討し、相互に倫理規則の遵守を心がけている

# 期待される効果

## 学術研究

研究費用が乏しく、自分で調査を遂行できない研究者へデータを提供  
公開データがあることで、研究成果、論文の内容の再確認を可能とする

## 政策立案

政治、経済、社会の政策立案の基礎情報を提供する

## 一般社会

世論調査などの情報を監視できる

政策の是非の根拠となるデータにアクセスできる

# 日本の現状と展望

- 日本は日本世論調査協会などを中心に長年検討されてきたが、各国に比較して、この方面の進展が乏しかった。
- しかし、データ処理技術は高いので、今後は、各方面と協力して急速な進展がのぞまれる。
- 結果として、社会調査データの相互交換で、各国の相互理解が促進され、世界の平和の創造と維持、経済の安定や発展の一助となることを期待する。

以上